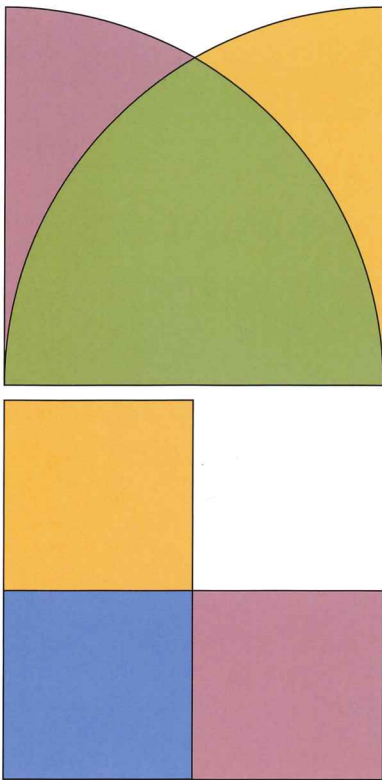


学習院大学史料館

ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of HistoryMuseum Letter
No.38

発行日 ● 平成30年(2018)9月1日

もくじ

ごあいさつ	1
明治天皇の信頼と乃木希典の院長就任	2
学び舎での寄宿生活と学生への訓示	3
片瀬游泳場における夏期游泳と天幕生活	4
英国王戴冠式随員と各国学校視察	5
中朝事実：昭和天皇に受け継がれた教え	6
明治の終焉と乃木希典が遺したもの	7
現存する乃木院長時代の建造物マップ	8



乃木希典所用剣道防具 [学習院アーカイブズ蔵]

ごあいさつ

学習院大学史料館では、9月13日(木)～12月1日(土)の期間に、「学び舎の乃木希典」として平成30年度秋季特別展を開催いたします。関連企画として10月6日(土)、山口輝臣氏(東京大学准教授)を講師にお迎えし、第87回学習院大学史料館講座「思ふどち 語りつくして—乃木希典と寺内正毅」を実施します。本ミュージアム・レターをご覧頂ければ、日露戦争後の明治40年(1907)に第10代学習院長に任ぜられた乃木希典が、翌年の目白校地移転・全寮制教育開始をうけて「質実剛健」を旨とする教育をいかに実践してきたか、その様子がお分かり頂けると思います。

この特別展では主に学習院が所蔵する乃木院長の愛用品・関連写真・遺書その他を展示。関連講座では遺書宛先の一人である寺内正毅との関係に焦点を当てた専門的解説をお願いし、ご来館・ご参会の皆様方にお楽しみ頂けることと存じます。

あらためて館長として、霞会館、乃木神社、学習院アーカイブズ、および関係各位のご協力に感謝申し上げます。

(史料館長・坂本孝治郎)

まなやののぎまれすけ
学び舎の乃木希典

今年は、明治という時代が始まってから150年。明治10年(1877)、華族子女のための学校として神田錦町に創立した学習院が、明治41年(1908)に現在の目白校地に移転してからは110年となりました。

明治40年、学習院の第10代院長に就任した乃木希典は、当時、日露戦争で旅順攻略を指揮した陸軍大将として、多くの人びとから敬慕される存在でした。明治天皇からの深い信頼を背景に院長となった乃木は、みちのみやひろひと 迪宮裕仁親王(後の昭和天皇)をはじめ、皇族・華族の子弟らの教育に尽力してゆきます。

乃木の教育方針は人格形成を重視したもので、在任中にはさまざまな場面で学生へ向けて訓示を与えています。目白校地において中・高等学科に全寮制が採用されてからは、乃木は寄宿舎に起居して学生と生活をともにし、自ら範を示して指導にあたりました。その質実剛健を旨とした教育は“乃木式”ともいわれ、長く学習院の教育方針とされました。厳格ながらも学生から慕われた乃木院長のエピソードが、数多く残されています。

大正元年(1912)9月13日、明治天皇の大喪当日に、乃木は自刃しました。この「殉死」は社会に大きな衝撃を与え、明治の終わりを象徴する出来事のひとつとして記憶されました。院長を喪った学習院では、学生・職員によって通夜・追悼会が営まれました。

この展覧会では、学習院長乃木希典が、学習院で使用した品や、在任中に皇室から下賜された品、旧蔵の書籍、直筆の書などを、当時の写真や豊富なエピソードとともにご紹介します。軍人としてだけではなく、学び舎の乃木希典の姿をご覧ください。

(学芸員・吉廣さやか)